

筆者は、月について、様々な説を出して説明した。最も有力な仮説と言われる巨大衝突説にも触れ、読者に分かりやすく説明した。私は、この説が一番好きだ。なぜなら、月形成までが興味深く思えるからだ。筆者なりの工夫も読み取ることができ、文の構成などを知ることができた。筆者が文の中に書かなくても良い言葉を書くところは、深く自分が関わっていると書いたのだと思うと、面白い。

さん

私は、巨大衝突説など、いろいろな仮説を立てられるのはすごいと思いました。また筆者は最後にあるとおかしい文をつけて、自分のすごさなどを主張していて、とても面白い人だなと思いました。「月の起源を探る」の授業は、とても面白く楽しかったです

さん

月の説明を長く順序よく書かれていて分かりやすかった。筆者はきっと月を分かってほしい気持ちが強すぎて、最後の余計な文を書いてしまったのだと思う。そこには、好きなものに対しての熱意が伝わり、筆者のペンが止まらなくなるようなものが想像できた。そこには、筆者の人間らしさが入り混じっているような気がした。

さん

筆者は、後半になるにつれて自分の思いなどが多くなっていった。このことから、本当に月や天体が好きなんだなと思いました。私も、好きなことになると、伝えたい気持ちが次々出ていてしまい、止まらなくなるので、小久保さんの気持ちがよく分かりました。

さん

私は、筆者の小久保英一郎さんが要らないことを書きたかったという気持ちに分かる気がしました。自分のしたすごいことを、皆に知ってほしい！という気持ちや確信・自信をもって書くから書いたと思ったからです。また、自分が思ったことを私たち読者に知ってほしいという気持ちもあると思いました。

さん

巨大衝突説は筆者が研究した結果、希望的な仮説だったのが今なお「最も有力な仮説」となっている。また、この巨大衝突説は、今までの古典的な仮説にあった問題点もしっかりと証明している。だから、筆者はこの研究をしたことを主張したために、余分な文言や言葉、また段落までもが追加されている。私は小久保英一郎さんは

とてもうれしくて自信があり、皆に自慢したいんだなと思いました。

さん

巨大衝突説をコンピュータ上に再現し、最も有力な説にまで押し上げた筆者らはすごいと思いました。しかし、最後の段落で、まだ仮説に過ぎないにもかかわらず、真実のように語ってしまうのはいけないと思いました。また、わざわざ「筆者らの研究により」などと書いていて、自分のしてきたことが正しいことだったと信じたい筆者の気持ちなのかなと思いました。

そういうところからも、筆者が少し少年のような心の持ち主ということも分かるし、宇宙に対する情熱も感じ取ることができた。

さん

筆者は、天体とか宇宙が大好きで、大人になってもそのまま宇宙・天体とかが大好きのまま成長しているのは、面白くて、要らない部分は出しやばりとかではなく、自信を持っていつているのだろう。本当は、もっと言いたいことが山ほどあるんだろうなと感じた。

さん

夢をかなえるために大事なこと3!!

興味のあることは何でもやってみる!

早くから進路を決めまわらない!

自然に親しんで身体を鍛える!



巨大衝突説について、私はなるほどな、と思った。アポロ計画までは古典的な仮説があったけれど、どれも月の特徴である惑星に対する質量比が大きすぎたり鉄の割合が極端に少ないことを説明できていなかった。しかし、巨大衝突説はそのどちらも説明できているため、たとえ今はまだ仮説であつてもとても有力だと私も思う。

だから、筆者の小久保さんは最後に「巨大な天体が地球に衝突し、月が誕生した」と結論のように言っているのだと思う。

さん

筆者は若いということもあり、いろいろな場面から、よく分からないような、なぜこれがあるのか？というところがあったが、そこから筆者の手柄（自分がただの天文学者じゃないことを言いたいような）が分かったので、じっくり読んでみると面白いなと思いました。また、月の起源など考えたことがなかったので、詳しく知れて良かったです。

天文学者たちは、何十億年前にできた月と地球のことを知ろうと頑張っていることが文章から分かりました。人間ってすごいなあ……。

さん

筆者はまず、展開で三つの説を順序を考えて提示し、否定することや具体例を出して実験、欠かを伝えることによって、巨大症と説を強調している。その強調したい気持ちも、文中から表れていることが面白かった。特に、最後の段落が少し矛盾していることが興味深かった。教科書の文を書くような人は、皆すごい人ばかりだと思つていたから。

さん

巨大な天体と地球が衝突して月が誕生したという「巨大衝突説」が一番有力であるということが分かった。「筆者らの実験」という所や、最後にもう一度説を推すところから、筆者は自分がやったことをアピールしたくて、自分の研究結果に対して相当な自信と誇りをもっているということが分かった。

さん

「分裂説」「共成長説」「捕獲説」の古典的仮説が出たが、科学が進歩していくにつれて否定され、「巨大衝突説」が研究によって、仮説として出てきた。これは、原始惑星同士がぶつかり合い、その衝突でまき散らされた岩石がともにぶつかり、合体し合つて惑星の周りに天体ができた。これが月なのではないかとの仮説が立てられた。これによつて、鉄が少ないということを説明することができた。巨大衝突が起こることで、重い鉄は惑星の方に引き寄せられて、その天体にあつた鉄はぶ

つかった惑星に合体したのではないかというものだ。このように「巨大衝突説」は、コンピュータシミュレーションが使われたりして、様々な実験を行ったことでできた仮説である。



ここで考えたのは筆者。実験の中心にいたのは筆者であると。最後の方の段落で、自分のことをこの「巨大衝突説」でアピールしたいという思いから、いくつも筆者の思いが入れられていて、自分が作った説であるからこそ、自信をもち、大きく存在をアピールしたのではないかと自分は考えた。

さん

筆者は若いゆえに、最後に少しミスをした。しかし、筆者が巨大衝突説が絶対正しいと思えるほど、巨大衝突説は有力で、欠点がほぼないということが分かった。筆者はこの説明文を中三に書くということをあらかじめ知っていたので、「よく過ぎない」などの叙述の工夫をして分かりやすく書いた。そのため、話の内容が頭の中にすつと入ってきた。僕は筆者に感謝したいです。また月は、巨大衝突説という、一見ありえなさそうな説がとても有力ということが分かりました。

さん

筆者は読者を自分の世界に引き込むのが上手いと思った。この話の文には、読者が疑問を持つポイントがあるたびに、筆者も読者が持ちそうな疑問を、想像して書いている。読者にすれば、ポンポンと自分の持つ疑問が解決されていくため、非常に読んでいて気持ちの良い文体になっている。

このような筆者の技術や工夫があったからこそ、授業の中で「新たな研究へ」の三つ目の段落の存在についておかしと思う人が少数派だったのだろう。

さん

筆者は、「巨大衝突説」を知らない私たちや疑問を持つ人への思いやりから細かく丁寧に教えようとして、具体例を使ったりしていることが分かり、すごいと思いました。

しかし、思いの強さから文末の表現を変えたり、言い切ったりするところがあって、「巨大衝突説」への思いが伝わってきました。そんな筆者が教えてくれた「巨大衝突説」をも、最後に、「否定されるかも」と言い、研究によって明らかに becoming となると言うので、科学の楽しさとかすごさとかが伝わってきました。

「宇宙」という大規模な研究をして、いろんなことを知ろうとする人たちはすごいと思ったし、「巨大衝突説」を知って興味がわきました。

さん

分裂説などは耳にはさむ程度に聞いたことがあって、心のどこかでそれが正しいのだろうなと思っていた。しかし、今ではそれらは否定され、巨大衝突説というのが出てきている。それは筆者のような熱い科学者たちのただならぬ努力の成果なのだろう。

僕は彼らのような好奇心のあふれる人たちは本当にすごい力を持っているんだなと改めて感じた。だからこそ、筆者のように、やっとな得のいく説を見つけた科学者は、誰かにその喜びを、考えとともに広めたいと思うのだろう。

筆者は「新たな研究へ」と言いつつも、本音は自分の説が正しいままであってほしいと願っていると思う。その姿勢は、誰かが非難するべきものではなくて、むしろ人間的であり、僕は偽りのきれいな事より、よほど共感できる。

さん

私は月の起源のことなんて全く考えたことはなく、「月は地球とともにある」というような考えだったので、衛星としては特異と言えるほど質量比が大きかったり、鉄が極めて少なかったり、なんてことを言われて、驚いた。そんな気持ちと身近な天体について知れた喜びのような気持ちがあふれてきた。また、筆者も同じような気持ちだったのではないかと思った。なぜなら、自分が科学者だということを忘れて、書きすぎてしまうくらい巨大衝突説に愛着があり、確信があったのだから。

さん

巨大な天体が地球にぶつかり、その衝突によって飛び散った岩石成分がさらにぶつかり合体することで、特異な月が形成されたという説はとても信じがたかったし、驚いた。しかし、筆者の書きっぷりによって本当なのではないかと思ってしまう。それぐらい筆者の主張が強く、熱いのだ。

「新たな研究へ」の場面の一・二段落では、理論天文学者として、「巨大衝突説はこれからの研究で改訂されるかも知れないし否定されるかも知れない」と書いている。しかし、三段落では、長年研究してきた巨大衝突説への激しい愛から、余計なことを書いてしまっている。僕は、ここまで何かに熱い思いを持てる筆者はすばらしいと思った。

さん

僕は今回の授業で月に対しての見方がすごく変わった。今いるこの地球と何かが衝突して月ができたなんて、考えたこともなかったし、考えようとも思わなかったからだ。月にすごく興味が持てたことがすごくうれしい。

僕は筆者がこの作品を書いた理由は、中三に巨大衝突説を理解してほしいからなんかじゃないと思っている。だって、理解してほしいだけなら、もっと専門の人に言えば良いから。じゃあ、なぜこの作品を書いたかというと、巨大衝突説を中三に知ってもらって、月や天文学に興味をもってもらいたかったからだと思う。なぜ興味をもってもらいたかったかというと、自分の後継者を育てるためだと思う。将来の優秀な天文学者を探しているのだろう。

さん